Europe Trends

発表日:2021 年 2 月 24 日(水)

ワクチン接種で先行する英国

～今後の行動制限解除のロードマップを発表～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

◇ 変異種の猛威が襲っている英国でも、感染者がピークアウト傾向にある。同国では人口の26%が少なくとも１回のワクチン接種を終え、７月末までに全成人の初回接種を終える政府目標の達成が視野に入る。３月８日に学校を再開するのを皮切りに、今後のワクチン接種の進捗状況、ワクチンの効果検証、医療資源の圧迫状況、変異種の感染リスクなどに基づき、段階的な行動制限の解除を決定する方針だ。早ければ６月中旬には全ての行動制限の解除を目指す。

英国政府は22日、イングランド全土を対象とした（イングランド以外の地域は各地域政府が決定する）今後の行動制限解除に向けたロードマップを発表した。段階的な解除は、①ワクチン接種が計画通りに進んでいるか、②ワクチンが死者や入院患者の効果的な減少につながっているかのエビデンス、③新規感染者が医療資源を圧迫しない程度の増加にとどまっているか、④コロナ変異種が予期せぬリスクを生じさせていないか、に基づいて判断される。段階的な解除の是非は５週間毎に判断され、過去４週間の判断指標の状況を評価し、１週間の周知期間を経て実行される。

＜第一段階その１（３月８日）＞

１）イングランドの全ての初等中等学校を再開する。学校再開にあたっては、集団検査を行い、通学時のマスク着用を義務付ける。屋内・屋外での運動や体育の授業も可能となる。

２）介護施設への訪問は１人に限り認められる。当該訪問者は繰り返し介護施設を訪問できる。入居者と訪問者は手をつなぐことが認められるが、それ以外の密接な身体的接触は認められない。訪問者は検査で陰性を証明したうえで、何らかの防護具を身につけなくてはならない。

３）これまで公共の場で集まることが認められたのは１対１で運動する場合に限られたが、１対１に限り、公園のベンチでコーヒーを飲んだり、ピクニックをするなどの社交活動が認められる。

＜第一段階その２（３月29日）＞

１）６つの異なる世帯の６人までか、２世帯で６人以上の場合に限り、屋外の公共の場や自宅の庭で集まることが可能になる。

２）自分の居住地域以外への移動制限（ステイ・アット・ホーム）が解除される。引き続き旅行を少なくすることが奨励されるが、罰金などは課されない。

３）屋外でのスポーツイベントの実施は大人も子供も認められる。社会的な距離（ソーシャル・ディスタンス）を確保できるゴルフやテニスだけでなく、サッカーやラグビーなどのチームスポーツも可能。組織されていないスポーツは、６世帯６人未満の制限対象となる。屋内での運動は引き続き制限される。

＜第二段階（最短で４月12日）＞

１）生活必需品でない物も含めた全ての商店の営業が認められる。買い物客は単独で訪問することが求められる。パブとレストランは屋外に限り営業が認められる。グループでの飲食も認められるが、６世帯６人未満の制限対象となる。アルコール提供の夜間の禁止時間帯はなし。

２）ステイケーションは１世帯が英国内で１泊する場合に限り認められる。他世帯との接触を伴わないコテージ、民泊、キャンプ施設の利用が可能になるが、ホテルやベッド・アンド・ブレックファースト（Ｂ＆Ｂ）の営業は再開されず。

３）動物園、テーマパーク、ジム（個人利用のみで集団レッスンは不可）、美容院、ネイルサロンの営業が再開。結婚式に参加可能な人数の上限は６人から15人に引き上げ。

＜第三段階（最短で５月17日）＞

１）６つの異なる世帯の６人までか、２世帯で６人以上に限り、屋内でも集まる（お互いの家を訪問する）ことが可能になる。

２）パブとレストランの屋内営業、ホテルとＢ＆Ｂの営業、屋内でのスポーツイベント、ジムの集団レッスン、映画館・劇場が再開される。結婚式に参加可能な人数の上限を30人に引き上げ。

３）4000人を上限に収容能力50％未満の屋外イベント、1000人を上限に収容能力50％未満の屋内イベント、１万人を上限に収容能力25％未満の大規模屋外イベントの開催が認められる。

＜第四段階（最短で６月21日）＞

あらゆる行動制限が解除される。結婚式や葬式の参加人数の上限が撤廃され、ナイトクラブの営業が再開されるなど、ほぼコロナ危機前の状況に復帰する。海外渡航の制限、ソーシャル・ディスタンスに関する制限、ワクチン証明の利用可否は別途方針を決定する見込み。

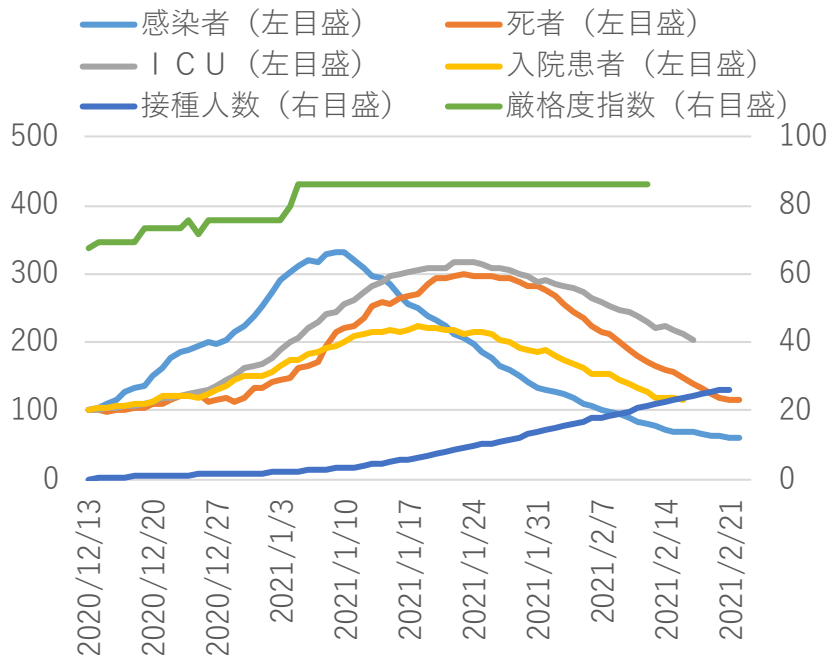
感染力の高い変異種が猛威を振るう英国では、昨年12月から感染者が一段と急増し、医療資源の圧迫が顕著となっていた（図表１）。１月５日から３回目の都市封鎖を開始し、その後は感染者の増加ペースがピークアウトし、医療資源の圧迫もやや収まりつつある。英国は主要先進国の中でワクチン接種が進んでおり、２月中旬には医療従事者や高齢者の最優先グループが１回目の接種を終え、21日時点で人口の26.1％が少なくとも１回の接種を終えている。他国では１回目の接種から３～4週間以内に２回目の接種を行うのが一般的だが、英国では１回目の接種を先行させ、２回目の接種までに12週間程度の時間を置く方針を採用している。そのため、２回目の接種を終えた割合は現時点で１％未満にとどまる。

英国がワクチン接種を開始したのは昨年12月初旬で、年明け以降に接種能力が大きく増加した。年明けから12週間後となる４月以降は２回目の接種割合が増えるため、人口に占める初回のワクチン接種割合の増加ペースは鈍ることが予想される。それでも、英国政府が目標とする７月末までに全成人が１回目のワクチン接種を終えることは達成可能とみられる。秋には集団免疫の獲得が視野に入る。英国の公衆衛生局は22日、米ファイザー製のワクチンが１回の接種で感染と重症化の抑制

に高い効果が認められたとする初期の研究結果を発表した。さらなる変異種の感染拡大や今後の段階的な行動制限の緩和が感染再拡大をもたらすリスクもあるが、ワクチン接種と都市封鎖の効果が広がれば、政府が今回発表したタイミングよりも前倒しで行動制限が解除される可能性も出てくる。

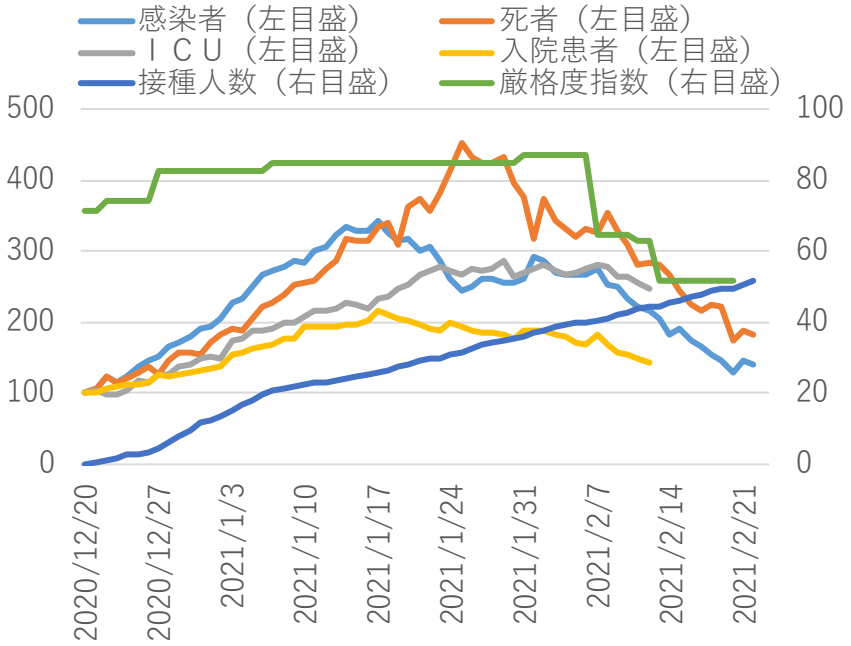
英国よりもワクチン接種が先行するイスラエルでは、人口の５割以上が少なくとも１回目の接種を終え、２回目の接種を終えた割合も35％超に達する。新規感染者の増加ペースが減少したことを受け、21日には商業施設、図書館、博物館などの営業を再開し、ワクチンの接種証明と引き換えにスポーツ施設などへの入場を許可する措置を開始するなど、行動制限の一部を緩和した。同国でもワクチンが発症や死亡リスクを減らす効果があるとの研究結果が発表されている。ただ、英国に比べてワクチン接種が進み、感染力の高い変異種が広がっていないにもかかわらず、イスラエルでの感染者の増加ペースの減り方はこれまでのところ限定的だ（図表２）。ワクチン普及と感染者や死者の抑制との関係については、より幅広い国の動向を踏まえたデータの蓄積が必要となりそうだ。

（図表１）英国のワクチン接種人数と感染・病床状況



注：1）左目盛はワクチン接種開始日を100とした指数
　　2）感染者と死者は7日移動平均値
　　3）接種人数は初回のみ＋２回ともの人口に占める割合
出所：Our World in Data資料より第一生命経済研究所が作成

（図表２）イスラエルのワクチン接種人数と感染・病床状況



注：1）左目盛はワクチン接種開始日を100とした指数

2）感染者と死者は7日移動平均値

3）接種人数は初回のみ＋２回ともの人口に占める割合

出所：Our World in Data資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。